

# エリアウェーブ

**峡東教育事務所**  
**地域教育支援スタッフ**  
 TEL 0553-20-2731  
 FAX 0553-20-2733

◎回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由にどうぞ。峡東教育事務所のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

◎ご意見・ご感想、情報提供はこちらまで。Email: adachiscje@pref.yamanashi.lg.jp

## 保幼小中連携セミナー報告

峡東地域教育推進連絡協議会主催

事例発表 〈保幼小連携〉「**奥野田保育所・奥野田小学校の取組**」

発表者 **奥野田保育所所長 牧野正美氏・奥野田小学校教諭 植原恵子氏**

〈地域連携〉「**甲州市の取組～地域コーディネーターから見た保幼・小・中の連携～**」

発表者 **甲州市教育委員会地域コーディネーター 内藤義仁氏**

8月20日(木)甲州市民文化会館において、峡東地域教育推進連絡協議会などが主催する「保幼・小・中連携セミナー」が開催され、保育士、教員、保護者、市教育委員や県・市職員ら114名が参加しました。

昨年度までのセミナーの成果と「連携の実践事例を聞きたい」という要望をふまえて、第1部では、二組の方に実践事例の発表をしていただきました。

まずは保幼小連携の実践として奥野田保育所と奥野田小学校の取組について、次に地域との連携の実践として甲州市の取組を地域コーディネーターの立場から発表をしていただきました。

第2部では、地域別に16グループに分かれて、「保幼・小、小・中それぞれの連携においてどんな取組があるか、また共通した指導としてどんなことが大切か」というテーマと「地域の教材(人材)を生かす機会として何があるか、またそれによって子どもに何を育てていくか」という二つのテーマを柱にして話し合いが行われました。

それぞれに実践している連携の状況や課題を出し合うとともに、より効果的な連携のあり方を模索していく熱のこもった討議がなされました。討議終了後に5つのグループに発表をしていただき、最後に飯田政文峡地連副会長が実践発表とグループ討議を総括して閉会しました。実践事例発表の概要は次の通りです。



### 【1】「奥野田保育所・奥野田小学校の取組」

- ①年長児と1年生のふれあいタイム
- ②奥野田保育所たんけんたい
- ③奥野田小学校授業参観・懇談会
- ④保育所でジャガイモ掘り体験
- ⑤保育所参観・懇談会
- ⑥奥野田なかよしまつり
- ⑦音楽集会へようこそ
- ⑧保育所へ行こう・図書委員会
- ⑨図書室体験

※成果と課題・1年生に先輩としての自覚と成長が見られ、園児は目標や期待感が持てた。

挨拶や返事など日頃大事にしていることの共通理解が持てた。

配慮が必要な子どもへの支援の継続が可能になった。

日程調整が難しい。継続のために無理のない形で教育課程に位置づけることが必要、など。

### 【2】「甲州市の取組～地域コーディネーターから見た保幼・小・中の連携～」

(1)甲州市学校支援地域ボランティア事業について

教育課程への支援・教育環境の整備・部活指導・登下校の安全確保などニーズに応じて学校の全てに対応。学校支援ボランティアは市全体で211名。年齢は50代から70代が中心。意欲的で責任感が強い。

(2)連携を深める(継続と内容の充実)ためには、相互理解と顔なじみになることがポイント。

学校や園の行事に地域の方が参加。学校から地域への情報発信。形ではなく目配り・気配り・思いやり。連携して得られる双方のメリット(教育的価値)を明確にすることが大切。

## 大和中・勝沼中の学校間交流 ～合同授業～

甲州市

7月1日(水)に、学校間交流の一環で大和中学校の全校生徒約30人が勝沼中学校を訪問して、終日一緒に授業を受けました。各クラスに分かれての授業のほか、学級レクや学年合唱、清掃などにも取り組んで交流を深めました。普段は一学年10人程度で過ごす大和中の生徒にとって、大人数での活気あふれる授業や迫力ある合唱などの体験は、たいへん新鮮で貴重な経験になったようです。同時に、両校の生徒にとって自分たちの学校生活を省みる良い機会にもなりました。



## 保・幼-小-中-高連携会議

笛吹市教育委員会

笛吹市では、職員の異校種間交流によって、同じ理念の下でのより質の高い保育・教育を実現するために「保・幼-小-中-高連携会議」を開催しています。7月29日(水)には笛吹市役所において「保・幼-小部会」が開かれ約40人が参加し、「聞く(聴く)力を育む実践」、「子どもたちの自立をどう育むか」というテーマで活発な意見交換がなされました。また、8月6日(木)には「中-高部会」が開催され、笛吹高校から各科・コース主任が、中学校からは進路担当・3年担当らが参加しました。高校から各科・コースの特徴について説明があった後、双方から具体的な質問や要望が出され、有意義な情報交換会になりました。



保・幼-小部会



中-高部会

## 親子わいがやトーク ～スマートフォンのスマートな使い方～

山梨市成人大学講座 <sup>がくぶ</sup> わくわく親子倶楽部

山梨市中央公民館

7月18日(土)、山梨市民会館で山梨市成人大学講座わくわく親子倶楽部「親子わいがやトーク～スマートフォンのスマートな使い方～」が開催され、20人ほどの親子が参加しました。ゲームを楽しんで和やかな雰囲気をつかった後、グループに分かれて子どもたちと大人が双方から、スマートフォンの良いところ・悪いところ、より良い使い方について意見を出し合いました。子どもたちからは、大人も参考にしたいようなすばらしい意見がたくさん出され、押しつけでないルールづくりの大切さを楽しみながら学ぶ機会となりました。



ゲームで交流



グループでの討議

## 学童クラブおやつ作り教室

山梨市健康増進課

山梨市健康増進課では、夏休み中に2回にわたって市内の学童クラブで「おやつ作り教室」を開催しました。8月4日(火)には三富学童クラブで、8月18日(火)には山梨学童クラブで開催した料理教室には学童クラブに通う1年生から4年生の子どもたちが参加しました。健康増進課・学童クラブの担当職員と山梨市食生活改善推進委員会のメンバーの指導を受けながら、「どら焼き」と「簡単ゼリー」づくりに挑戦しました。初めて料理をする子どももいて、慣れない手つきながらも一生懸命に取り組んでいました。



## 増田昭一氏講演会 「遠い約束」 上映会

笛吹市教育委員会

笛吹市立図書館では、戦後70周年、核兵器廃絶平和都市宣言10周年企画として、8月1日(土)に春日居あぐり情報ステーションにおいて、作家の増田昭一氏の講演会と増田昭一氏原作のテレビドラマ「遠い約束～星になった子どもたち」の上映会を開催し、100名を超える市民が参加しました。ドラマは終戦前後に満州各地から逃げてきた日本人が収容された「新京敷島地区難民収容所」で短い生涯を閉じた孤児たちを描いた作品でした。みずからの収容所での体験をもとに「この子どもたちの死と彼らが懸命に生きようとしたことを後世に伝えなければ」という増田氏の強い信念が、子どもからお年寄りまでの幅広い層の聴衆に深い感動を呼びました。隣接する春日居郷土館では「わか町の八月十五日展～出征した人と戦時中の暮らし～」が開かれ、見学者にとっては、戦争の悲惨さと平和の尊さを考えるきっかけとなったようです。



## わだつみ平和文庫特別展

### 終戦の日特別記念講演会 ～「わだつみ」と平和～

戦没学生の手記『きけ わだつみのこえ』の出発点となった中村徳郎氏ゆかりの資料と、徳郎氏の遺言で弟中村克郎氏が収集した書籍3万3千点が、このほど甲州市に寄贈され「わだつみ平和文庫」として収蔵・展示されることになりました。甲州市では8月11日～23日までわだつみ平和文庫特別展を開催するとともに、終戦の日8月15日(土)には『きけ わだつみのこえ』の編者でもある克郎氏の娘中村はるね氏による記念講演会を開催しました。戦没学生の手記が語りかける平和の尊さ、『きけ わだつみのこえ』編集に込められた克郎氏の思い、そして膨大な資料を甲州市に寄贈するまでの経過なども織り交ぜての熱のこもった講演でした。講演後、特別展会場では中学生らを前に講師みずから資料についての解説をおこないました。勉強を続けたいという強い思いを抱きながら戦地に散った戦没学生の無念さが参加者の心に響いていました。

甲州市教育委員会



## やまなし子どもフェスティバル

山梨市子育て支援課

8月1日(土)山梨市民会館において、地域社会と家庭が連携して、安心して子どもを育てられる環境をつつていく取組の一環として「市制10周年記念事業 第16回やまなし子どもフェスティバル」が開催されました。会場では、人形劇や親子童謡コンサート、アートバルーンなどの催し物のほか、木工工作コーナー、使わなくなったおもちゃの交換会、子供服や学用品等のリユースコーナー、救急蘇生法の講習会、パトカーや消防車の展示、親子歯科相談、育児相談など様々なコーナーが設けられ、多くの子どもたちの元気な歓声にあふれていました。



親子童謡コンサート



アートバルーン



おもちゃの交換会

# サイエンスステップ 小学生科学教室

日川高校

7月18日(土)に、日川高校で「サイエンスステップ 小学生科学教室」が開催されました。SSH(スーパー・サイエンス・ハイスクール)の高校生が日頃の勉強の成果を生かして講師になり、化学・物理・生物・地学・数学の各分野について、その指導を受けながら小学生がさまざまな実験や体験に取り組みました。白衣を着た「高校生先生」たちの丁寧でわかりやすい説明を聞きながら、参加した小学生たちは真剣な表情で熱心に取り組んで、科学のおもしろさを満喫していました。



## 若者との交流／塩山高校 ～「パソコンに挑戦」～

ことぶき勸学院映東教室2年生・塩山高校

8月7日(金)、ことぶき勸学院映東教室2年生は、塩山高校商業科2年生の生徒とパソコンの実技実習を通して交流を行いました。開講式では、塩山高校の飯島節生校長先生からの御挨拶の後、担当の先生方と生徒が紹介されました。実技実習は、初級と中級の2コースに別れ、先生方による全体指導に沿って、生徒が操作補助をしながら行われました。参加した勸学院生は、生徒による親切で丁寧な説明により、パソコン操作を楽しむとともに、異世代との貴重な交流を行いました。



## 小学生の学習教室・体験教室の開催

笛吹市教育委員会

NPO法人学びの広場ふえふき

県の学力向上フォローアップ事業の指定を受けた笛吹市教委では、夏季休業中を利用した「小学生の学習教室」をスコレーパリオなど笛吹市内各地区6箇所を会場に5日間、市内14小学校を会場に2～8日間の日程で開催しました。この学習教室は、学びの広場ふえふきと教育会笛吹支部・一宮支部のスタッフが中心となって学習支援を行うもので、各地区で開催された学習会では、算数を中心とした基礎的な学習と各自が持参した教科書・参考書・テキストによる個別指導のほか、学習についての相談も行われ、小学校4年生から6年生まで延べ301名が参加しました。また、各小学校で開催された学習教室では大学生も支援に入り、参加児童の学年や学習の状況に応じて、国語や算数を中心とした復習が行われました。

一方、学びの広場ふえふきが開催する「体験教室」は、石和地区の4つの学童保育クラブにおいて、読み聞かせ・紙芝居・手すきハカキづくり・水鉄砲づくり・木工工作・校外学習等が実施されました。

これらの教室は、一人一人の児童に寄り添った丁寧な指導と支援によって、子どもたちの学びに対する興味と意欲を引き出す有意義な機会となりました。



# 中学生交通・防犯弁論大会

笛吹警察署・日下部警察署管内

笛吹警察署管内中学生交通・防犯弁論大会が8月28日（金）に、いちのみや桃の里ふれあい文化館において開催されました。交通弁論の部で石和中学校 2 年の亀山愛菜さんが最優秀賞、防犯弁論の部では石和中学校 3 年の宮崎愛結さんが最優秀賞を受賞し、県大会への出場が決まりました。

一方、日下部警察署管内の日下部地区中学生防犯・交通弁論大会は、8月31日（月）に勝沼市民文化会館において開催されました。交通安全弁論の部で勝沼中学校の辻みなみさんが最優秀賞、防犯弁論の部では塩山中学校の依田未咲さんが最優秀賞に輝き、県大会への出場が決まりました。

県大会は甲州市で開催されます。代表に選ばれた皆さんの県大会での健闘を心からお祈りしたいと思います。

【笛吹警察署管内交通・防犯弁論大会入賞者】

【日下部地区防犯・交通弁論大会最優秀賞受賞者】



交通弁論の部



防犯弁論の部



## チャレンジサマースクール

静岡・山梨一泊二日

公益社団法人山梨青年会議所

山梨青年会議所では、7月18日（土）・19日（日）に市内の小学4～6年生を対象にした海水浴とウェイクボードの体験を行うチャレンジサマースクールを開催しました。一日目は静岡県の長浜海水浴場で海プログラム（海水浴）と浜プログラム（ビーチフラッグス）を満喫し、夜はキャンプファイヤーで交流を深めました。二日目は河口湖湖畔に移動してウェイクボードに挑戦しました。全員が初めての体験でしたが、プロのインストラクターの指導を受けながら上手に水上を滑走していました。天候にも恵まれ、自然とふれあいながら仲間とともに様々な体験をした二日間でした。



## 甲州 子どもサバイバルCAMP in 竜門峡

甲州青年会議所

甲州青年会議所は、青少年育成事業の一環として、「甲州 子どもサバイバルCAMP in 竜門峡」を8月1日（土）～2日（日）に1泊2日の日程で実施しました。小学3～6年生約30人が参加した今年のキャンプは、甲州市の豊かな自然の中での非日常体験によって、身近にある地域資源を見つめ直すとともに、仲間と協力すること・人と関わることの大切さを学ぶことを目的として行われました。竜門峡でのウォーキング、日川渓谷での水遊び、魚採りや流しそうめん、ドラム缶風呂やキャンプファイヤーなど、3人一組のグループごとに協力しながらサバイバルな2日間を身体全体で満喫しました。





山梨県立山梨高等学校

# Nashikoh ism

『梨高イズム』とは、

梨高で大切にしている教育理念を、5つの「ism」(主義・理念)として掲げているもの、それが梨高イズムです。こうありたい・こうあってほしいという生徒と教職員の姿を象徴しています。

校訓「至誠無息」(常に誠実であることを目指して怠ることなく自分を磨く)の教えのもとに、梨高イズムによる教育活動に力を入れています。ここでは、その様子の一部をご紹介します。

## めんどうみ ism

職員室前には「質問コーナー」が設置されており、日常的に質問をする生徒の姿が見られます。またそれだけでなく、二者懇談にも利用され、生徒と先生方とのコミュニケーションの場となっています。この“めんどうみ ism”は梨高の校風であり、生徒同士が助け合う場面も常に見られます。



## 頑張り ism

県総体などで多くの部が活躍しています。体操・陸上・ハンドボール・バドミントンが関東大会出場、体操・弓道がインターハイ出場を果たし、文化部でも吹奏楽・放送・写真・書道など県外大会に出場しました。学園祭においても、クラス全体が一丸となり紡ぎ出す生徒達の絆には感動するものがあります。“頑張り”を通じて仲間と友情を育てています。



## 未来 ism

生徒それぞれの進路実現のために、個別懇談をはじめ、土曜課外・長期休業課外などの進路指導にも力を入れています。土曜課外は年間15回、県内外で活躍している予備校有名講師を学校に招いて講義をしています。昨年度は100名を超える生徒が大学へ進学しました。自身の豊かな未来を実現すべく、日々努力しています。



## 自立 ism

時間に管理されるのではなく、自分で時間を管理するをモットーに、梨高ではノーチャイムを実施しています。早めの行動が意識できるようになったと、生徒からも好評です。また、一人一人が手帳を持ち、スケジュール・ToDoリストで自己管理能力を身につけています。“自立ism”により、自身の将来を構築していきける社会人を目指しています。



## 思いやり ism

ひとに優しく、時に厳しく、仲間を思いやる人であってほしいと、山梨県立大学の元講師を招き、生命(いのち)の授業を行いました。実際に何組かのお母さんと赤ちゃんに参加していただき、共に学ぶ中で、自分がどのように生まれ、どのように周囲の人たちに育てられてきたのか、再確認しました。このような体験が梨高の“おもいやりism”を育てているのです。



## 2016年 英理総合コース START

### コースの理念

グローバルな人材育成のためには英語の力はもちろんです。総合的な考え方が必要です。新コースは、文系でも理系でも通用する、国際性豊かな人材育成を行うことを目的としたコースに改善しました。

### カリキュラムの独自性

- I 英語総合コース7校時を設け、1単位多く設定する。
  - 1年次 英語
  - 2年次 理系科目
  - 3年次 英語
- II 英語の授業は単独で、可能な限り少人数制で実施し、2・3年次においてもALTを配置する。

### 梨高オリジナル活動

